

すわみつえ通信

No.62

日本共産党鴻巣市議員 諏訪 三津枝

2019年 2月11日(月)



連絡先 鴻巣市赤見台3-2-7
TEL: 596-9440 FAX: 507-4151
携帯: 080-5039-2785
E-mail: mi-suwa@ezweb.ne.jp
mitsue-suwa@jcom.zaq.ne.jp

WEBで suwa-mitsue.jp/

お困りのこと ご要望など
いつでもお声かけください

福祉・教育最優先の街づくり 市民の声を生かし いのちとくらしを守る市政に

鴻巣市議会 3月 定例会に向けて



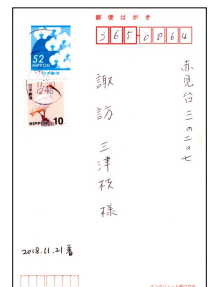
鴻巣市議会 本会議場 (本庁舎5階)

2019年度予算編成に 向け 予算要望書を提出

会期最後となる議会が2月22日(金)より始まります。日本共産党鴻巣市議団は昨年の12月議会閉会後に2019年度予算編成に向けて、①国民健康保険税の引き下げ、②介護保険料補助制度の拡充、③小児救急医療体制・産婦人科の拡充、④小中学校の学校給食費の無償化、⑤シルバー人材センターでの就労拡大、⑥鴻巣駅上りレーター設置、⑦ごみ減量でごみ処理施設の適正建設など、市民の皆さんの切実な要求を82項目にわたり予算要望書として、市長に届けました。

また、小中学校の学校給食の値上げが検討されていることに関しては、「値上げ分は市が補助せよ」の値上げ反対の署名活動を行い、皆さんからお寄せいただいた822筆を1月24日に教育長に届けました。こうした市民の皆さんの運動が実を結びよう頑張ります。

「すわみつえ通信」お読みいただいた方からの嬉しいお便り



昨年の11月21日に通信をお読みいただいた方から、取り上げた「保育ステーション」についてのご意見がハガキで届きました。共働きでお子さんをこれから保育所の申込をされるようでした。市役所に問い合わせてもはつきりと答えてもらえなかつたとのことでしたが、後の広報「かがやき」に掲載されて「通信」の方が、情報が正しく早いと感じられたとお便りでした。

議員は市政が今どうなっているのかを、市民の皆さんに正しくお知らせし、皆さんからのご意見をいただきながら、市政に反映していかなければならないと思っています。これからもご意見・ご要望をお寄せいただければ幸いです。よろしくお願いいたします。

SMART合同訓練 に参加して

2月7日(木)に上谷総合公園で行われた平成30年度埼玉県特別機動援助隊(SMART=Special Mobile Assistance Rescue Team)合同訓練を拝見させていただきました。
災害時における消防と医療の連携

強化を目的とした専門訓練です。当日は「上谷総合公園内のスタジアムにおいて爆発事故が発生した」ことを想定して行われました。観客になり救助を待つ役、消防学校の生徒さんを、隊員が的確な判断のもと救助活動を行いました。



埼玉土建中部支部の結成会 15年記念式典に参加

2月10日(日)にクレアここのすで行われた埼玉土建中部支部の結成15周年記念式典に参加致しました。北村姉妹の美しく力強い津軽三味線の演奏で開会し、15年の運動の歴史を支部長が語りました。



毎週朝 駅頭においてホットなニュース「すわみつえ通信」をお届けします。

(月)吹上駅南口 (火)北鴻巣駅東口 (水)北鴻巣駅西口 (木)吹上駅北口 (金)鴻巣駅西口

「新しいごみ処理施設
問題」についての
学習会に参加して

2月9日(土)、中央公民館において、講師に埼玉自治体問題研究所の木村芳裕氏を招いた鴻巣革新懇主催の学習会に参加しました。氏は「鴻巣市はまだ分別の余地がある」ことを数字を用いて説きました。

ごみのリサイクル率は埼玉県平均では21・2%で、鴻巣市は19・7%です。リサイクルが進んでいる自治体では、加須市が39・1%、宮代町が36・4%、久喜市が32・7%となっています。分別しリサイクル率を高めることでごみの減量ができます。ごみを減らすことで大きなごみ処理施設を造る必要がなくなります。ごみを減らすことを、市の計画に乗せていくことが大切だと思いました。

鴻巣市はまだ分別
の余地がある

ごみを燃やすより
たい肥化が有効

埼玉県63自治体のごみ処理データによると鴻巣市のごみ排出量は1人1日当たり648gです。環境省の「ごみ処理基本計画策定指針」によると1人1日当たりの家庭系ごみ排出量の目標は、500gとなっています。

ごみの減量は、ごみの分別と生ごみをたい肥にすることで実現できます。生ごみのたい肥化と焼却のコスト比較例(長野県上田市では「ごみ焼却経費」は26,500~29,500円/トン、「たい肥化経費」は20,000円/トンで焼却するよりも経費が安くなります。鴻巣市として、ごみの減量に努力した上で、3市による環境資源組合でごみの減量計画をしつかり策定してからごみ処理施設の規模を決定する必要があります。過大な施設は時代に逆行するもので、市民が求める進め方とは言えません。

市区町村名	総人口	集団回収量	1人1日当たりの排出量						
			合計 (ごみ総排出量) *10 ⁶ /総人口 /365	総排出量 順位：降順	生活系ごみ (生活系ごみ搬入量+集団回収量) *10 ⁶ /総人口 (g/人日)	生活系ごみ 順位：降順	事業系ごみ (事業系ごみ搬入量) *10 ⁶ /総人口 /365		
	(人)	(kg)	順位	(g/人日)	順位	(g/人日)	(g/人日)		
合計	7340458	15.9		867.0		667.0		200.0	
鴻巣市	119001	8.1	43	795.8	43	648.0	39	147.8	41
行田市	82994	11.2	34	963.1	11	763.0	7	200.1	24
北本市	67697	0	62	762.7	54	626.7	50	136.0	49

	直接資源化量	直接資源化量 順位：降順	中間処理施設からの資源化量計	同左焼却を除く資源化	焼却を除く資源化 順位：降順	リサイクル率 R (直接資源化量+中間処理後再生利用量+集団回収量)/(ごみ処理量+集団回収量)*100	リサイクル率 R' (直接資源化量+中間処理後再生利用量〔固形燃料、焼却灰・飛灰のセメント原料化、セメント等への直接投入、飛灰の山元還元を除く〕+集団回収量)/(ごみ処理量+集団回収量)*100	R1 順位
	(kg)					(%)	(%)	
合計	19.0		42.2	23.2		24.5	21.2	
鴻巣市	31.4	10	39.2	15.8	43	27.8	19.7	38
行田市	20.5	26	40.6	4.6	62	20.6	10.5	63
北本市	44.7	5	23.9	1.3	63	24.6	16.6	48